

重要文化財千葉家住宅概要資料

千葉家は遠野市西郊の山麓に所在し、南斜面を造成して築いた石垣上に小城のような屋敷を構える。

千葉家は江戸時代に肝煎りを務め、武士の身分を持つ家柄だった。口伝では、先祖は源頼朝の御家人千葉氏の従士で、戦国期には葛西氏に仕え、主家が滅んだ後、遠野に逃れてきた。遠野南部家の家臣となった際に千葉の姓を名乗り、屋号を「山喜」とした。代々山林業等で財を成し、ニワから臨めるほとんどが千葉家の土地で、駅から自宅まで所有地だけを通り行き来できたという。主屋は、四代喜右衛門（1792-1870）が、飢饉で困窮した人々の救済のため、約10年の歳月をかけて普請したと伝わる。

屋敷は宅地の前面に長大な石垣を野面に積み、中央に主屋を南面して構える。大工小屋とハセ小屋も主屋と同じ頃に建てられたとみられ、その後、嘉永2年（1849）に稲荷社が建てられ、明治45年に土蔵、大正末期に石蔵が建てられて屋敷構えが整い、さらに昭和42年に納屋が改築された。

千葉家住宅主屋は、南部曲り屋の分布域南縁に位置するとともに、遠野地方に典型的な平面をもち、洗練された座敷意匠を採用するなど、江戸末期の大型曲り家民家として価値が高い。また主屋周囲には、江戸末期から大正期にかけて建設された附属建物が残り、その特異な敷地構成とともに豪農の屋敷構えをよく保持している。

主屋・土蔵・石蔵・稲荷社・大工小屋の5棟、附としてハセ小屋・宅地5599.63㎡（納屋・石垣含む）が平成19年12月に国重要文化財指定。平成25年7月遠野市が保存活用のため周辺山林を含めた土地243531.00㎡と全ての建物を公有化。平成28年度から大修理を予定。

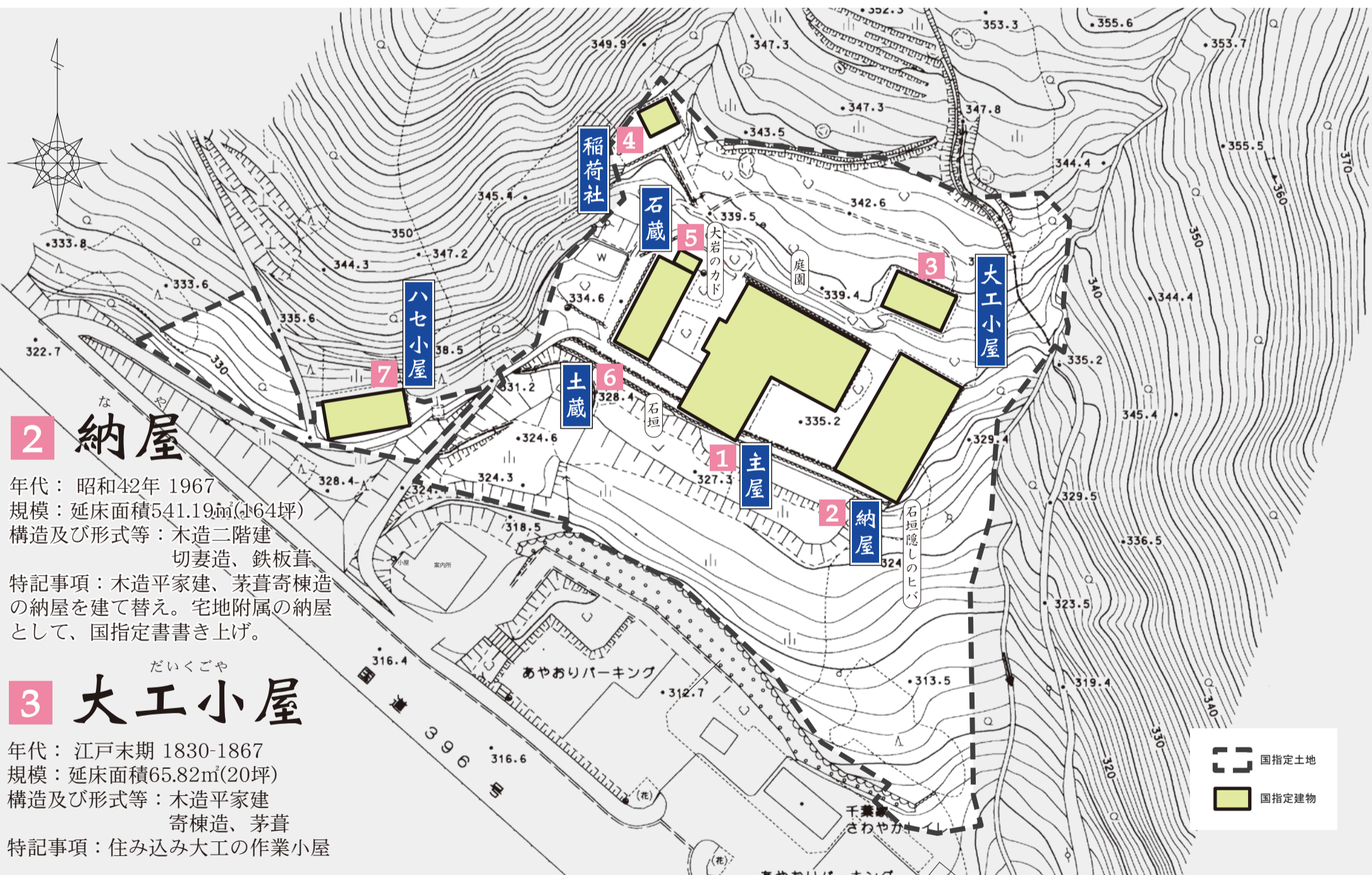
1 主屋

年代：江戸末期 1830-1867
 規模：延床面積519.29㎡(157坪)
 オモヤ 桁行25.9m (13間半)、梁間11.7m (6間)
 ウマヤ 桁行14.7m (7間半)、梁間10.5m (5間半)
 構造及び形式等：木造二階建
 オモヤ 寄棟造、茅葺、南面玄関附属
 ウマヤ 入母屋造、茅葺、東面及び西面庇付

改築履歴：
 完成から数年後 ウマヤを3間増築
 大正～昭和初期 オモヤ屋根裏を二階部屋に改造
 1965年頃 ハシリに浴室設置、間仕切一部変更
 1974年 民宿を営む為大改造（中廊下新設、便所・浴室新設、サッシュに変更、システムキッチン取付、ウマヤを展示室に改造）屋根葺替

特記事項：国内最大級の曲り家

所在地：〒028-0533岩手県遠野市綾織町上綾織1地割14番地
 施設名：南部曲り家千葉家
 TEL：0198-62-9529
 FAX：0198-62-8045



2 納屋

年代：昭和42年 1967
 規模：延床面積541.19㎡(164坪)
 構造及び形式等：木造二階建
 切妻造、鉄板葺
 特記事項：木造平家建、茅葺寄棟造の納屋を建て替え。宅地附属の納屋として、国指定書書き上げ。

3 大工小屋

年代：江戸末期 1830-1867
 規模：延床面積65.82㎡(20坪)
 構造及び形式等：木造平家建
 寄棟造、茅葺
 特記事項：住み込み大工の作業小屋

4 稲荷社

年代：嘉永2年 1849
 規模：延床面積14.16㎡(4坪)
 構造及び形式等：木造平家建
 入母屋造、鉄板葺
 特記事項：千葉家の氏神。棟札3枚あり（国指定附）。四代喜右衛門57歳の時建立。石鳥居も国指定附。

5 石蔵

年代：大正14年 1925
 規模：延床面積17.47㎡(5坪)
 構造及び形式等：石造平家建
 切妻造、瓦葺
 特記事項：味噌蔵、漬物蔵として利用。宮城県塩竈産石材を使用。

6 土蔵

年代：明治45年 1912
 規模：延床面積252.89㎡(76坪)
 構造及び形式等：土蔵造三階建
 切妻造、瓦葺
 特記事項：三階建に二階建が接続。かつて散在していた数棟の土蔵を1つにまとめた。

7 ハセ小屋

年代：江戸末期 1830-1867
 規模：延床面積88.01㎡(26坪)
 構造及び形式等：木造平家建
 寄棟造、茅葺
 特記事項：稲掛用の丸太（ハセ）を収納した小屋。農機具などの物置としても使われた。